

## 図書館システムにおけるディスカバリサービス API の機能要件

諏佐 洋平

近年、Google や Amazon をはじめとした多くの Web サービスにおいて、外部のアプリケーションからそのサービスを利用することのできる Web API が公開されている。筑波大学附属図書館システムでも、冊子体にとどまらない多様なコンテンツを検索できる新しいサービス、ディスカバリサービスが提供され、その API（以下、Tulips API）が開発された。しかしながら、ディスカバリサービスは登場して間もないため、どのような API がディスカバリサービスに有用なのか分かっていない。そこで本研究では、Tulips API によるアプリケーション構築を行い、API に必要な要件を考察することを目的とした。

本研究で開発したアプリケーションは、キャラクター育成、新着図書紹介、ファセット利用検索、シラバス検索の 4 種類である。まず、キャラクター育成は資料検索を行うことでキャラクターが成長していくアプリケーションである。検索の内容により成長後のキャラクターが変わる仕組みになっている。新着図書紹介は、OPAC に最近登録された図書情報を取得し、表示するアプリケーションである。次にファセット利用検索は、本来検索結果の絞り込みに使われる情報を利用することで、より詳細な検索ができるアプリケーションである。シラバス検索は、一部の学類ページから自動的に授業の内容を取得し、検索できるアプリケーションである。複数の学類の授業が検索でき、ブックマークで管理することができる。

これらの開発を行った結果、ディスカバリサービスの API として以下の要件が明らかになった。1) 取得できるメタデータの種類が多いほど様々なアプリケーションが実現可能になるため、コンテンツのメタデータの項目は多い方がよい。2) Tulips API では検索結果として多くのコンテンツ情報が取得できるが、利用する情報はその一部であることが多い。そのため、取得するコンテンツ情報をコントロールする仕組みが必要である。3) Tulips API の検索結果のデータには利用することのない値や無意味な階層構造が多いため、データ構造は単純なものにするべきである。これは一般的な Web API にも当てはまる。4) Tulips API では資料検索を行うのにいちいち認証が必要であったが、個人情報でないコンテンツ情報を取得するには認証は必ずしも必要でなく、より簡便に取得できる必要がある。

これらの要件を満たすことで、Tulips API は誰にでも容易に利用できる API となるだろう。図書館員や学生に限らない多くの開発者がこの API を利用し、新たなサービスが生まれ出されていく事を望む。

(指導教員 宇陀 則彦)